

飛行機が苦手なのに大好きな話

室蘭市医師会
製鉄記念室蘭病院

斉藤 淳人

私は飛行機が大の苦手だ。あれは今から8年前の嵐の日。丘珠空港から釧路空港へ向け、40席そこそこのプロペラ機で、太平洋上からたぶん3°の降下角でもって陸側へ向け、機首下げをしていた機内でのことでした。それはそれは大変揺れたのです。ご承知の方も多いかもしれませんが、この航路は多少の揺れでキャーキャー言っちゃうような乗客は多くなく、その日もスーツに身を包むビジネスマンたちがまるでサウナの如く、じりじりと揺れに耐えていました。大きくない飛行機ですから、通路を挟んで右2列・左1列のどう見てもアンバランスな重心の機体が、上下左右はおろか、ジャイロスコープのように3D回転しだして、常連であろうビジネスマンたちでさえ「わああ」と声をあげているあたり、今思っても異常な揺れでした。うねる機体の客室窓から、普段なら見えることのない滑走路がまっすぐ見通せるほどに機首は右へ偏移し、タイヤが滑走路に接地すると機首は進行方向に大きく振り戻し、私の前の座席の方は体が浮いて頭を打っていました。

この日から、私は飛行機が苦手です。揺れを相殺しようと座席にお尻の一点で接するよう座り頭と足をシートから離してV字で乗ってみたり、ひたすら眠ろうとしたものの微々たる揺れで飛び起きて気持ち悪くなったり、耳にイヤープレーン®、鼻にはアラミスト®、操縦している気分で乗ったら酔わない説など、いろいろ試行錯誤をしました。そして「いちばん安全な乗り物」を支える航空力学や運航のルールなどを知れば、苦手を克服できるかもしれない。そう考えいろいろ調べ始めたのです。

もちろん、あの程度は航空事故ではありません。多くの滑走路がカテゴリI (CAT-I) というのに属するところ、釧路空港はCAT-IIIbという濃霧でも安全に降りられる運用精度の高い計器着陸装置 (ILS; Instrument Landing System) のある滑走路を有します。ILSは横方向を示すローカライザ (LOC) と縦方向を示すグライドスロープ (GS) という装置でもって、電波の滑り台に乗って自動着陸できます。

特にハイテクなCAT-IIIbの滑走路は、当時国内に4カ所しかなく、成田、中部、熊本と、なぜか釧路空港に1本あるのみでした (平成30年現在、新千歳空港など3カ所増の計7カ所)。成田はともかく、釧路空港にCAT-IIIb滑走路があるのは、それだけ天候不良が多く、有視界飛行頼みではまともに定期運航できないからでしょうか。

ところで、ILSがない滑走路でもこれに似た装置

はあります。滑走路の端っこに並ぶ赤白の4つのライトを見かけたことはありませんか？ あの着陸進入角指示灯 (PAPI; Precision Approach Path Indicator) は、適切な降下角であれば白赤赤赤に見え、角度が大きければ白白白白、小さければ赤赤赤赤と、色が変わることで滑走路への降下角を知らせるライトです。

しかし、いくらハイテク技術を信頼しても、結局ひどい揺れにあっては同じでした。最終的に至った対策は、できるだけ座席数の多い大きな飛行機を予約することと、もう一つは事前に揺れそうか調べておくことです。

フライトの前にパイロットは気象や飛行経路についてディスパッチミーティングを行います。搭乗後にCAさんが「揺れが予想されます」とアナウンスすることがありますが、大して揺れずに身構え損が多いです。私たちが日ごろ行いがちな「ちょっとオーバーにムンテラしとく」文化と一緒になのでしょうか。

一般公開されている航空天気図がいくつかあり、国内悪天予想図 (FBJP) では日本地図上にタービュランスが予想されるエリアとフライトレベルが発表されます。また、国内航空路予想断面図 (FXJP) は、日本を石垣島から札幌まで縦断する断面図で雲の位置がつかめます。

インターネットでは、航空各社で独自の運航予想を発表しているほか、天候の予測については気象サイト・Windy (www.windy.com) がおすすめです。世界地図で場所と時間を動かしながら、気流の流れや雲の濃さや高度が分かります。

天気図を最大限に活用するためには、乗ろうとしている便の航空路と飛行高度を調べておく必要があります。これには航空サイト・Flightradar24 (www.flightradar24.com) が役に立ちます。ADS-B信号という空中衝突防止装置 (TCAS) のための電波で、便のコールサイン・速度・高度が、管制官の見る画面のように表示されます。しかし、すべての機がADS-B信号を発しているわけではありません。また、エアフォースワンなどコールサインをあえて消している機もあります。機内Wi-FiからFlightradar24にアクセスすれば、ADS-B対応の自分の機がどこをどの高度で飛んでいるかを確認できるかもしれません。

他にも、滑走路の記号や文字や飛行経路、さらには機内医薬品やリスクマネジメントなど、医療業界でも応用できそうなノウハウをたくさん得ました。さあ、ここまで来れば、安心して道東へも空の旅を楽しめます！

あの日から数年。根室出張へと向かう私は、車内販売がなくなったスーパーおおぞらと花咲線の鈍行を乗り継ぎ、丸一日かけて陸路で道東に向かいました。ほら、今日もシカの群れが長閑な根釧台地を駆けている。